

令和元年度 児童アンケート集計結果

4:よくあてはまる
 3:ややあてはまる
 2:あまりあてはまらない
 1:まったくあてはまらない

評価項目		全学年の児童の評価割合					
		4	3	2	1	平均点	昨年度
くらしのこと							
1	「くん」「さん」をつけて、名前をよんでいる。	40.0	38.0	15.0	5.0	3.1	3.3
2	黙々そうじができています。	44.0	46.0	7.0	1.0	3.3	3.5
3	自分から進んであいさつや返事をしている。	53.0	34.0	9.0	1.0	3.4	3.5
4	ろうかを走らず、静かに歩いている。(1・3・4歩き)	29.0	47.0	18.0	4.0	3	3.1
5	トイレのスリッパは、次に使う人のことを考えて並べている。	55.0	32.0	10.0	1.0	3.4	3.8
6	給食は残さず食べている。	70.0	18.0	8.0	2.0	3.6	3.8
7	学校は、楽しい。	68.0	26.0	2.0	1.0	3.6	3.6
学習のこと							
8	先生や友達の話をしっかり聞いている。	57.0	38.0	3.0	0.0	3.5	3.5
9	自分の考えを進んで発表している。	37.0	38.0	17.0	5.0	3.1	3.2
10	授業で分からないことがあったら、質問している。	30.0	33.0	23.0	12.0	2.8	3
11	家庭学習をきちんとしている。	70.0	20.0	6.0	1.0	3.6	3.7
先生や自分のこと							
12	先生は話(考えやなやみなど)をよく聞いてくれる。	73.0	22.0	2.0	1.0	3.7	3.7
13	先生は、よいことをしたり努力したりしたことをみとめ、ほめてくれる。	77.0	19.0	2.0	1.0	3.7	3.7
14	先生の授業はわかりやすい。	75.0	23.0	1.0	0.0	3.7	3.8
15	将来の夢や目標をもって、努力している。(3～6年のみ)	54.0	28.0	13.0	5.0	3.3	3.5

児童アンケートの考察

【くらしのことについて】

・概ね4と3の評価をつける児童が多く、教師の指導の効果とともに、児童が自立した学校生活を送っていることが分かる。
 ・「くん・さん」をつけて友達の名前を呼ぶことや、廊下歩行、トイレのスリッパ並べについては2割程度の児童が、できていないと判断している。教師の意識を高め、改善に向かう共通目標をもち、共通実践していく必要がある。さっそく3学期、改善を目指して取り組んでいるところである。

【学習のことについて】

・話をしっかりと聞くことについては、指導の効果が表れている。反面、自分が考えたことを発表したり、困ったときには尋ねたりという、自己表現力が十分に育っていない反省を児童自身がしている。
 ・算数科においては、研究の推進によって仲間と協働し課題を解決していく授業づくりが進んでいるので、どの時間でも、どの教科でも実践するよう、共通理解と共通実践を進めているところである。特に2や1と評価している児童を把握し、主体的に学ぶ楽しさを味わわせ、課題解決に向かっているところである。

【先生や自分のことについて】

・教師と児童の関係は良好であることが見とれる。それが、学習の定着のみならず、学級の安定化や登校の安定化につながっていると考える。
 ・どの児童も安心して登校できるように、2や1と評価している児童との関係性を高めていく努力をしていかなければならない。
 ・夢や目標をもっている児童は多い。それに向けて努力することへ、2や1の評価をしている児童が2割弱いる。毎日の学校生活を充実させることが、夢や目標の実現につながることを指導し、自己有用感を高めていく。